



市会 関 勝則
議員 せき かつ のり

「地域の子カラ」を、
提案・実践。

◎29年度予算案◎
<http://関勝則.com>

～横浜市 中期4か年計画「総仕上げ」の年～

29年度予算案 只今審査中

平成29年度は「横浜市中期4か年計画2014～2017」の最終年度であり、市民の方々にはこれまでの取り組みの成果や効果を実感していただく重要な年度となります。

社会経済情勢が不透明感を増す中ですが、子供たちの安心・安全や経済対策、災害対策といった緊急かつ迅速な対応が求められる事業費については、確実に確保していかなくてはなりません。

主な事業と予算案

＜＜子供や若者、高齢者支援＞＞

- 女性も男性も働きやすい職場づくりを進める市内中小企業をサポート。女性の起業家や再就職を支援。＜＜1億800万円＞＞
- 地域社会で高齢者が活躍できる仕組みづくり。介護予防や社会参加を通じた生きがいづくりを促進。＜＜1億200万円＞＞
- 各区の子育て支援拠点運営。妊産婦への相談支援や地域での親子の居場所づくり。＜＜17億1500万円＞＞
- 4月1日から通院助成対象を小学3年生から6年生に拡大し、通院1回の上限額を500円へ。＜＜100億8700万円＞＞
- 児童虐待の早期発見、早期対応、再発防止へ向け、関係機関の連携強化に努め、社会的養護の体制充実へ施設職員の処遇改善や里親への研修を実施。＜＜63億3000万円＞＞

＜＜市民生活の安心・充実＞＞

- 下水直結式仮設トイレ(地域防災拠点)の整備。まちの不燃化。緊急輸送路の整備。水害・がけ地対策。＜＜852億2900万円＞＞
- ひとり親家庭の生活の安定、自立のための子育て支援や就業支援など総合的なサポート。＜＜1億2800万円＞＞
- 障害者への後見、就労支援や肢体不自由特別支援学校の再整備、地域療育センターの充実。＜＜38億7400万円＞＞
- ラグビーワールドカップ開催へ横浜国際総合競技場の改修整備、横浜文化体育館の再整備、本牧市民プールのリニューアルオープンに向けた解体工事。＜＜11億4700万円＞＞

＜＜横浜経済の活性化＞＞

- 中小企業の資金繰り、経営相談支援、技術開発や品質管理、デザイン支援を拡充。＜＜365億2900万円＞＞
- 市内企業の海外進出を支援するほか、海外諸都市との連携・交流、アフリカ開発会議の誘致。＜＜2億5400万円＞＞
- 商店街における国内外からの来街者獲得へWi-Fi環境の整備や多言語での商店街情報の発信。＜＜2億5000万円＞＞
- 横浜南部市場の賑わいエリアで民間事業者による食をテーマとした施設を整備。＜＜16億1600万円＞＞

＜＜都市機能、環境の充実＞＞

- 横浜港の国際競争力を高め賑わいを創出するため山下ふ頭の再開発、物流施設の集積、大水深・高規格コンテナターミナルの整備、客船の誘致・受入れへ岸壁改良。＜＜244億4400万円＞＞
- 横浜環状道路や都市計画道路、東部方面線(相鉄・JR・東急直通線)の整備、交通ネットワークの充実。＜＜465億2200万円＞＞
- 再生可能エネルギーや水素エネルギーの利活用による低炭素なまちづくりに向けたエネルギーマネジメントの推進。都市農業への支援を通じた地産地消の推進、樹林地の保全や緑の創出、大規模公園の整備。＜＜103億7200万円＞＞

予算案メモ

一般会計は1兆6459億円(28年度比8.7%増)、全会計(純計)では2兆8605億円(一般・特別・公営企業会計の重複部分を除いた計)となっている。市税収入は個人市民税、固定資産税の増などで、7193億円(28年度比0.5%増)を見込む。その内訳は、個人市民税41.7%、法人市民税7.0%、固定資産税37.4%等。その他の主な歳入は、国・県支出金3649億円、県税交付金1804億円、市債1399億円など。

歳出経費は、人件費3569億円(21.7%)、扶助費4694億円(28.5%)、公債費1850億円(11.2%)、行政運営費2473億円(15.0%)、施設等整備費1904億円(11.6%)、繰出金1969億円(12.0%)となっている。